

- ・20ページ
- ・オリジナル漫画作品
- ・魔王おねショタ

＊魔王は勇者の言葉で混乱している！



大魔王ゲヲゾールが世界を支配してから
300年が経った…。
人間たちに残された最後の希望は無理やり
勇者に仕立て上げられた
"少年さとるん"ただ一人だった…。

か…観念しろ！
“魔王ゲラゾール”！



僕が来たから
には…お…お前
なんか…ッ！

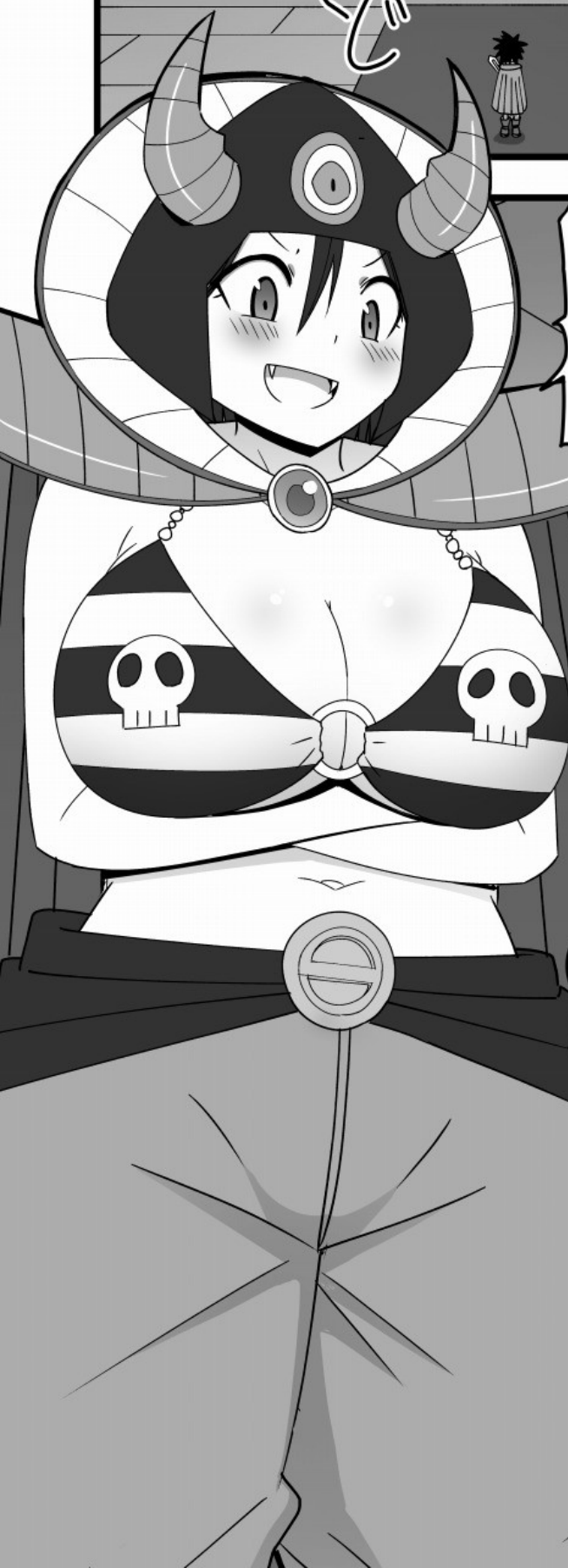
よくぞ我輩の
元までたどり
着いたな！
勇者よ！

じん！！

よくぞって…
この城には魔物
1匹いかなかった
ぞ…ッ！
モンスター



ああ！
その事か！

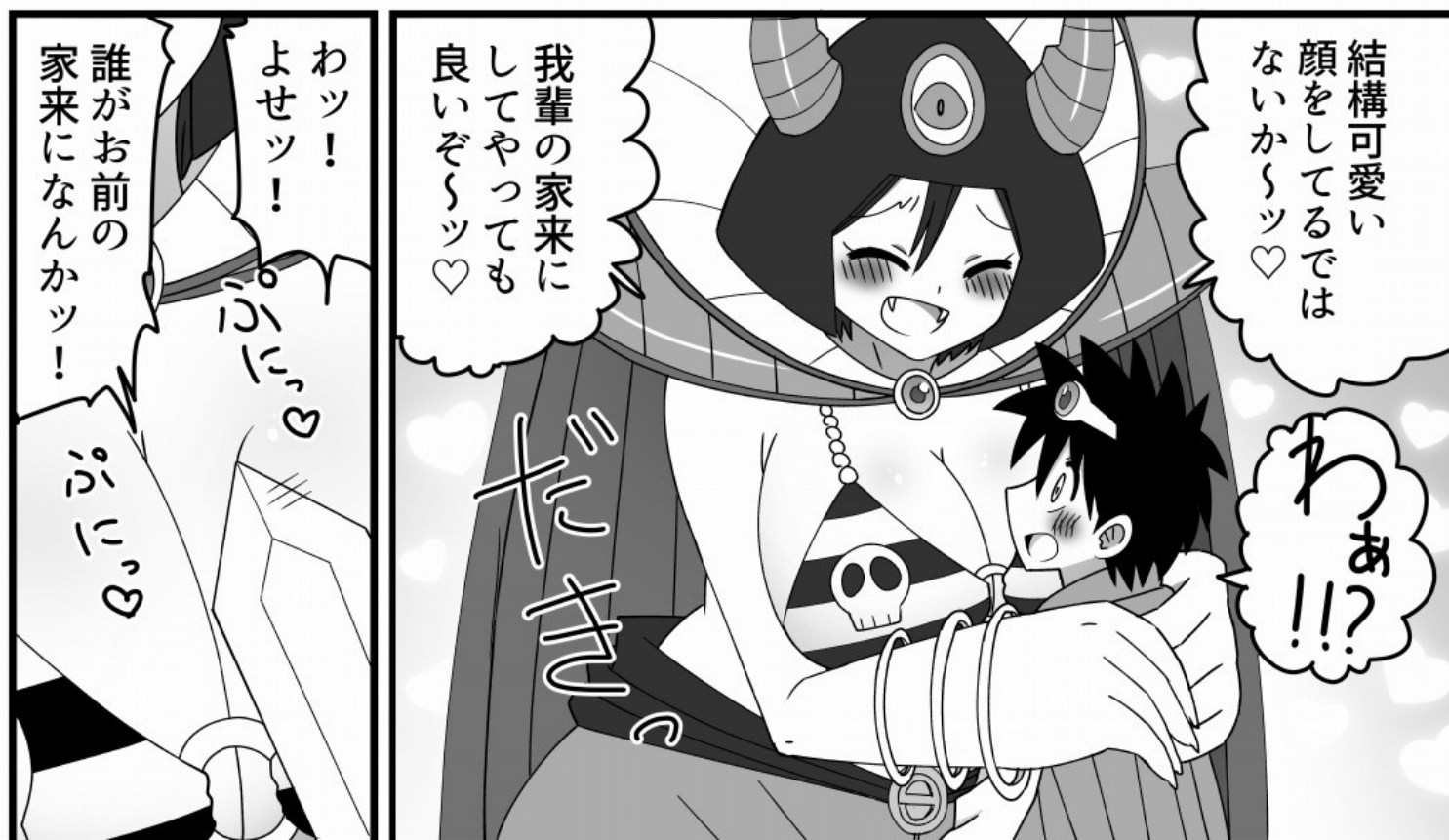
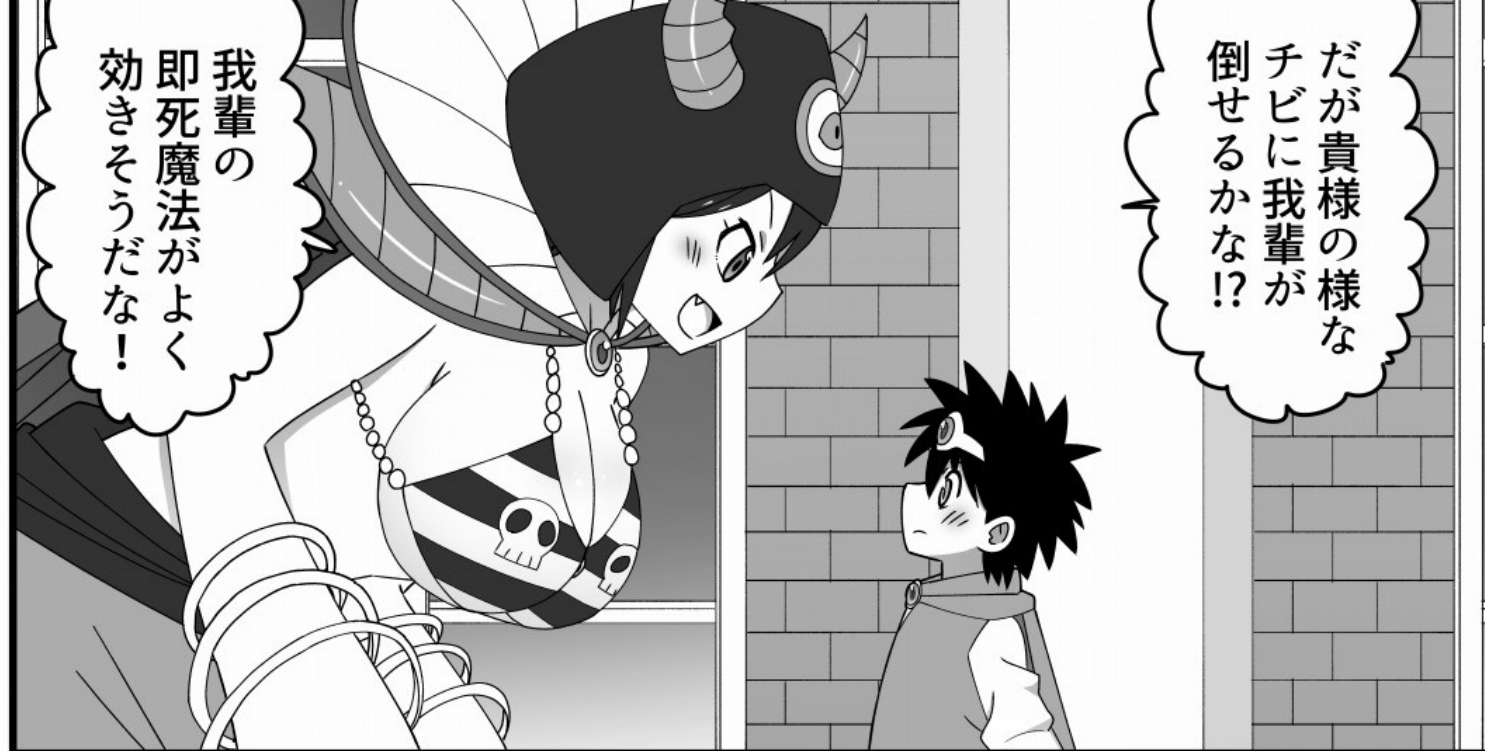


我輩は長年…世界を
支配し過ぎて…
我輩を倒そうとする
冒険者はいない
からなッ！

魔物たちも
長期休暇中
だ…ッ！
モンスター

からん







よく聞け
勇者よ…

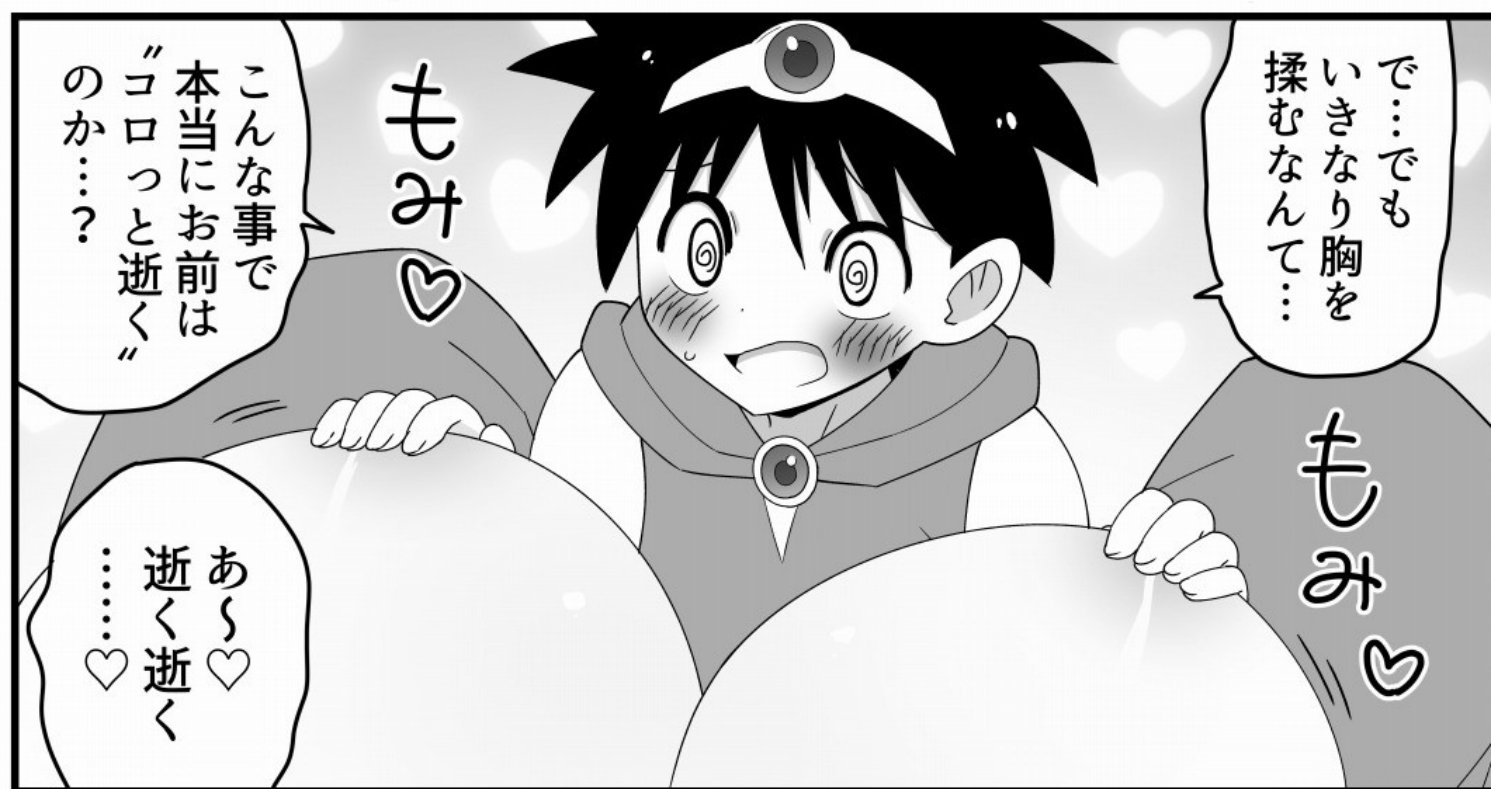
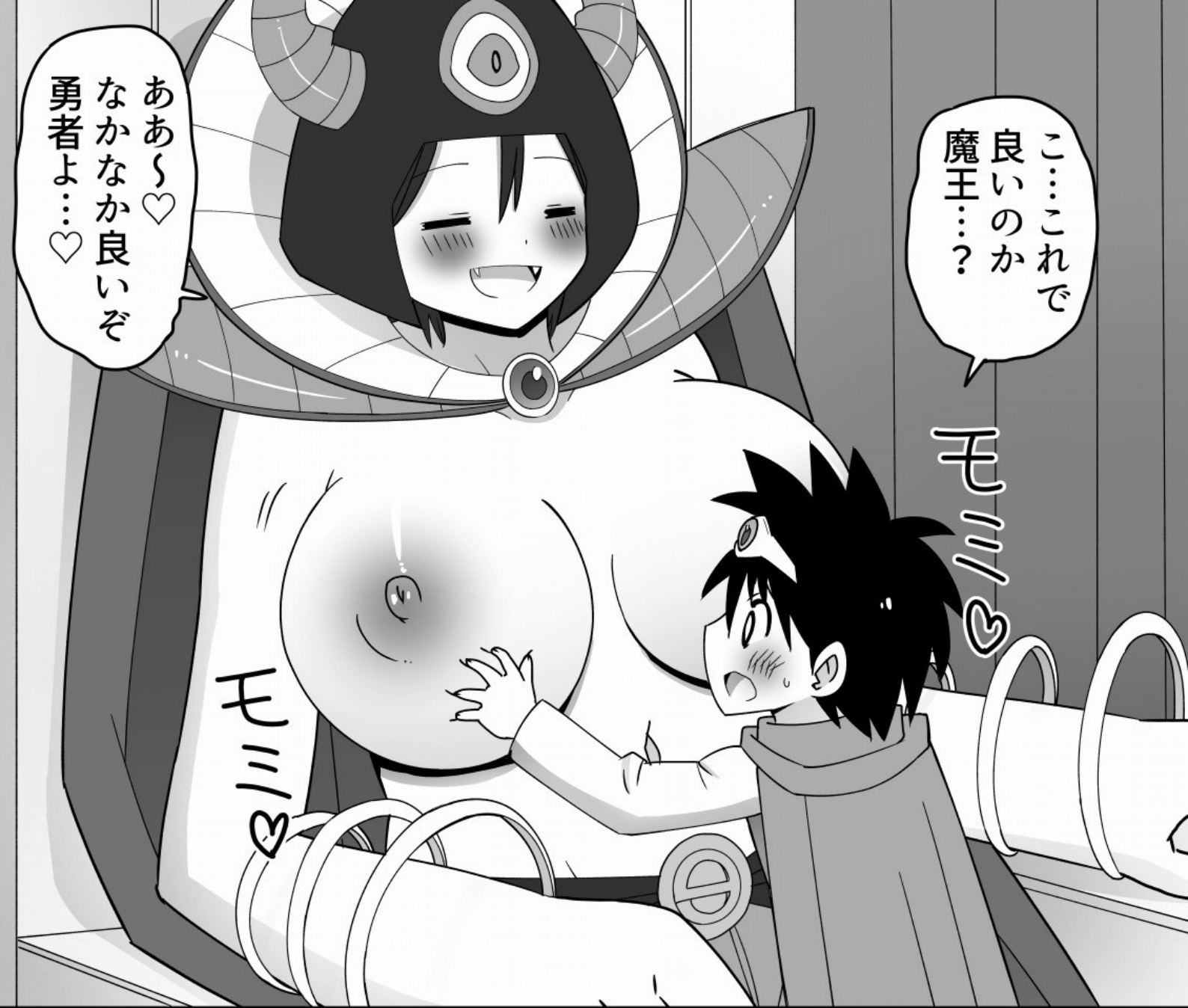
実は
我輩は…

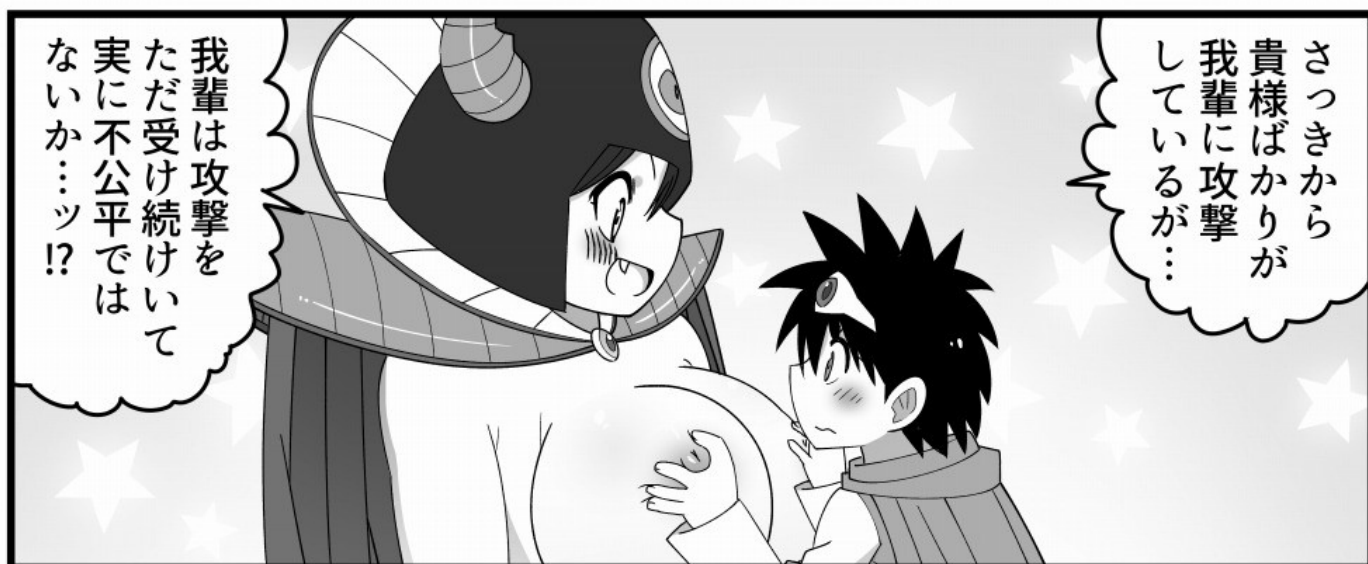
魔王で
あるにも
関わらず

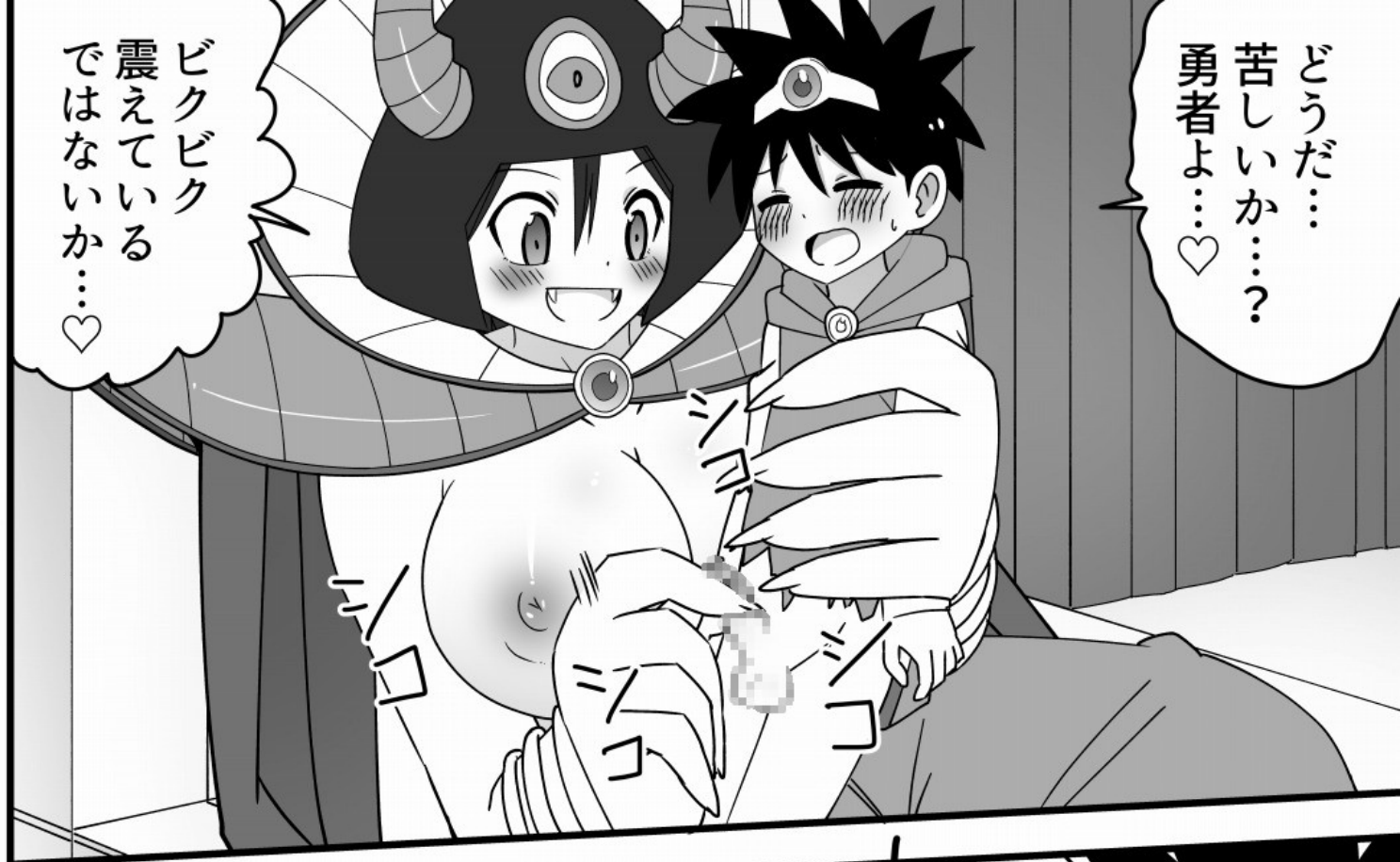
心臓に
病を抱え
ておる
のだ…

つまり…









どうだ…
苦しいか…?
勇者よ…♡

ビクビク
震えている
ではないか…♡



ちよ…やめ…♡

すごい
勢いだな…♡

流石は
勇者だ…♡



では…次は
貴様の攻撃の
番だ…♡

はあ…
はあ…

どうだ勇者よ…
ここが我輩の
急所だぞ…♡

貴様の
イチモツで
存分に攻撃
するがよい♡

ぱあ♡

え…？でも
どうすれば
いいのか…
僕…

ええい！
じれったい！

ズッ
ボツ♡

わあ！？

ここに
貴様のイチモツを
入れればいいのだ！

あ…
なんだこれ！？
魔王…ッ！

ぎゅっ♡

ぎゅっ♡

なんか…
あつい…ッ！
あ…ッ！



そしてもっと
腰を振って我輩を
攻撃するのだ♡

いいぞ♡
上手いぞ♡

ゆさ

こ…
こうかッ!?

ハッ
グッ

ハッ
グッ



ほ…本当に
これでお前を
倒せるのか…
魔王…

本当に
可愛いな
この子♡

きゅん♡

きゅん♡

ハッ
グッ

きゅん♡

ハッ
グッ

ハッ
グッ



さあ…
覚悟しろよ…
勇者よ♡

うん♡

ちよつと…
まって…

じゅぽ♡

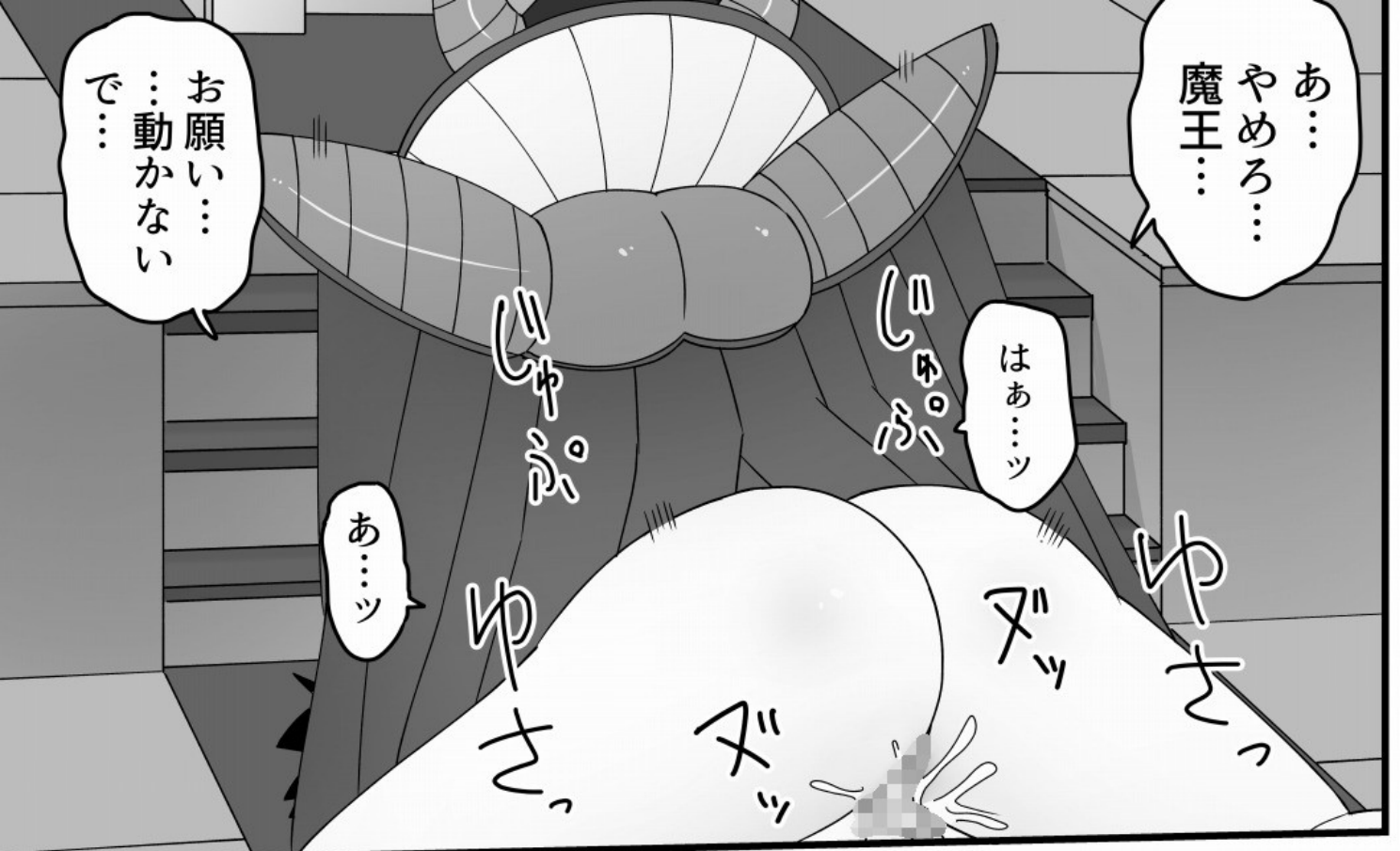
しっ

あ♡
馬目♡
♡♡♡

全部
入ったあ♡

ずい♡
い♡
い♡
う♡







本当に
可愛いヤツ
だな♡

このまま
食べてしま
おうか…♡

しゅ
り



はッ!?
我輩とした
ことが!

危ない
危ない
危ないッ!

ゲホッ!
ゲホッ!

ばっ



あッ!

あ…ッ!

ぐっ
たり

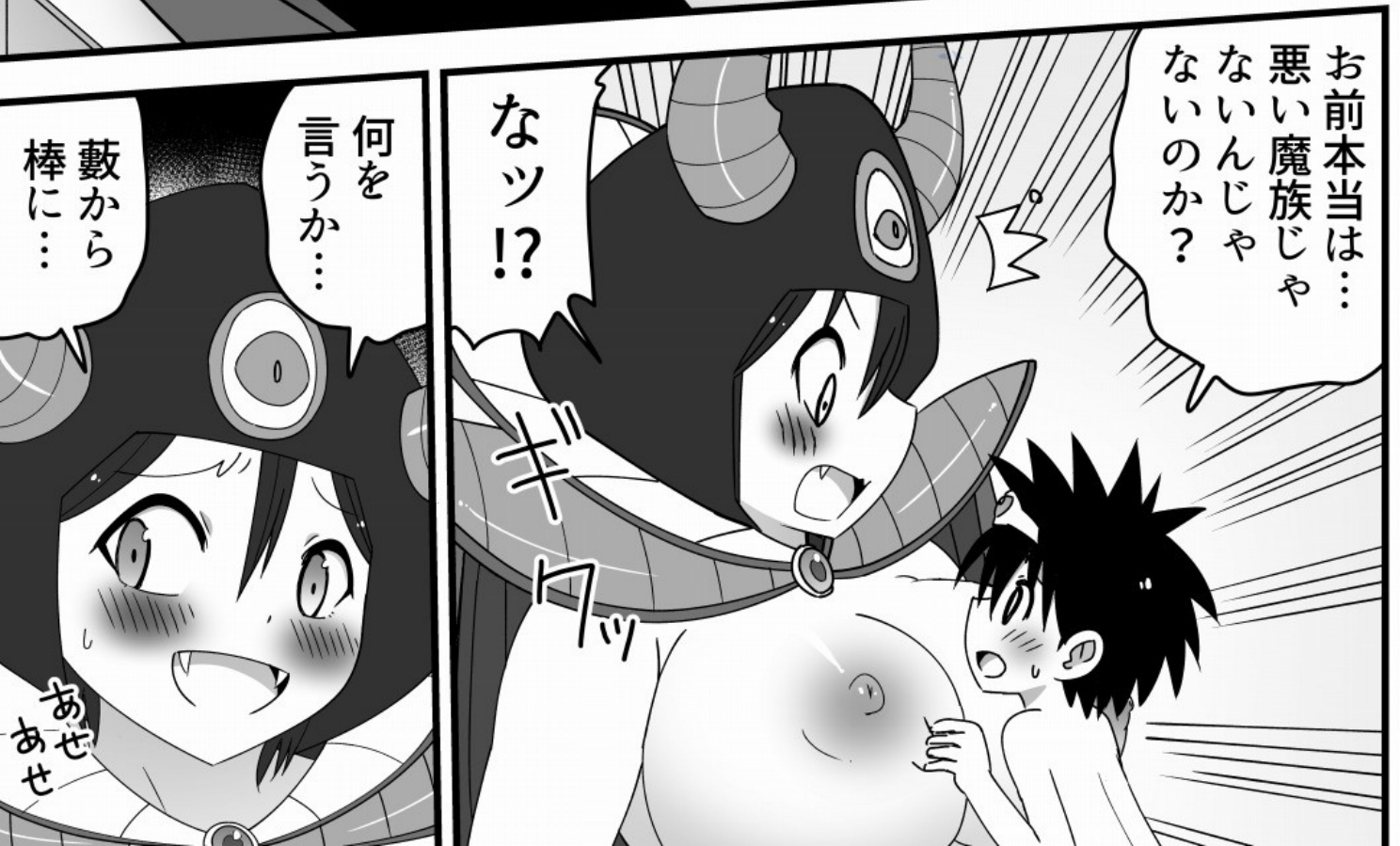


つい魔族の
血が騒いで…

こんなに可愛い
ヤツを殺して
しまう所だった!

はっ
あぁ

*魔王は勇者に回復魔法を使ってあげた!



僕に弱点を
あえて教えて
くれたし…

さっきの
回復魔法
だって…

トキ
トキ

あ…
それは
だなあ…
えうと…

き…貴様が
簡単に死んで
しまつては…

魔王としても
つまらない
からなあ…

あせ
あせ



僕だってお前を
殺したいわけ
じゃないんだ！

死にたくない
のは僕もお前も
一緒だろ！？



なら何故
僕に弱点を
教えたんだ！？

え…
え…と…



お前がこの世を
支配なんて
しなければ…

魔王も勇者も
ともに生きれる
はずだろ！？



腰を止める！
勇者！あッ♡

胸をそんな
強く…んッ♡

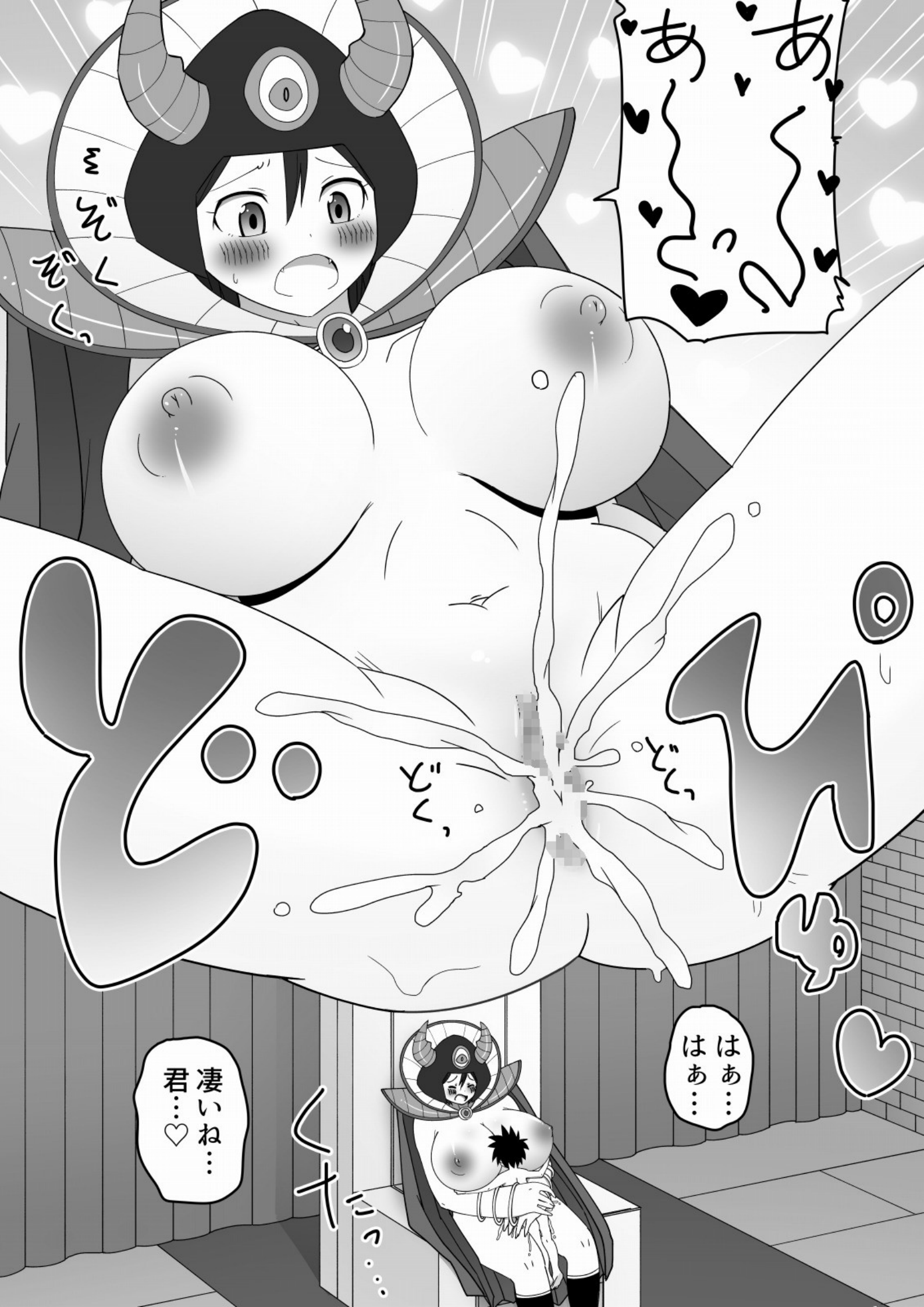


ちよ…ちよつと
待て勇者よ！
貴様…

ともに
生きるって…

何だよ
この子！？

***魔王は勇者の言葉で混乱している！**



あゝあゝ

君... 凄いいね...

はあ... はあ...

ど

ど

ぐ



初めて君を
見た時…正直
バカにしてた
けど…

ちよつと
見直しちゃ
った…

もっ♡



我輩も魔王だから
君が思ってる
ほど…

良い心を持つ
てるわけでは
ないからな…



ホントか
魔王ッ!?

はぁ
あぁ

ああ…
だかな…



だから貴様が望むような
世界になるような事は
永遠にないのだッ!
ワーツハツハツハツハツ!

あッ!なんだよ!
急に魔王みたいな
口調に戻るな!
それになんか
顔が真っ赤だし!

うるさい!
人間のクセにちよつと
勇気があるからって
いい気になるなよッ!

本当は優しい
魔王だって事がバレて
恥しいんだろ!
こっちを見る魔王ッ!

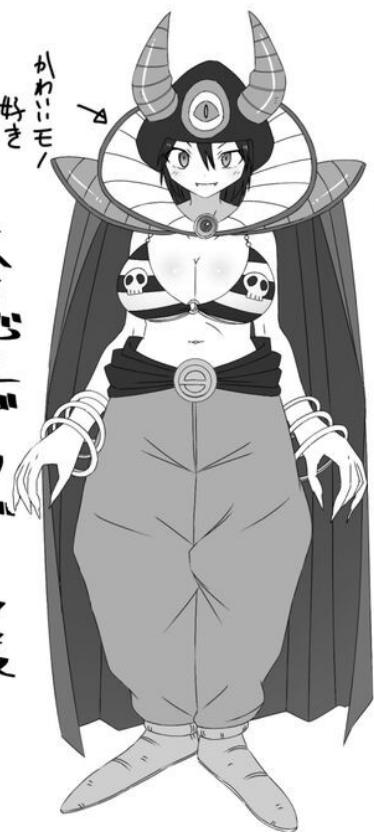
*魔王と勇者はお互いの事が大好きになってしまった!

『たったひとりで大魔王のお姉さんに挑んだショタ勇者の話』

魔王ゲヲゾールに世界が支配されてから300年が経った。魔王の勢力が強すぎて誰も魔王討伐に挑戦しなくなった今、最後の希望は何の力も無いのに無理やり勇者に仕立て上げられた少年さとりんだけだった。たった一人で魔王の城にきたさとりんだが、長年、冒険者が魔王討伐に來なかつたので警備をするモンスターも1匹もいなく、1度も戦闘になる事もなく魔王の間に到達してしまう。勇者の剣を手に大魔王ゲヲゾールに挑んだ勇者さとりんは瞬殺をされる事を覚悟したが、大魔王は意外にも可愛いモノに目が無くて勇者に一目ぼれしてしまう。命は助かりそうな勇者が大魔王の弱点の探ろうとしてる事に気付いた大魔王は「実は我輩は心臓が悪くて何かキュンキュンしてしまうような事があるとキュン死してしまうかもしれないのだ」と勇者に告げる。それを真に受けた勇者は「よし…そういう事なら自信は無いけど」…と何とか大魔王をキュン死させるべく頑張るが、次第にもどかしくなつた大魔王は勇者にR-18的な大魔王をキュン死させる方法を伝授する…。

大魔王ゲヲゾール様

かわいいモノ好き

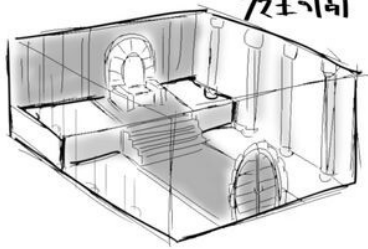


力も無いのに無理やり勇者に

勇者さとりん



うしろ姿



大魔王城



勇者の剣

追記：初期イメージメモです。おねショタモノの中でも体格差が大きい方が好きで人間よりデカイものが好きでと個人的に魔王と勇者ってシチュエーションがすきだから魔王おねショタです。このキャラを考えた段階で結構好みのがかけたんじゃないかって思ったんですけど、いざ原稿で描いてみるとラフを描いてる時では気付かなかった不備が沢山あって反省も込めて次のページでちょっとその辺をまとめておきます…。前作と時間があいてるのは秋コミティアとか冬コミケでメカバレ合同誌の原稿を描いてたのもあるけど、なかなか難産な漫画でした…。メカバレ合同誌の方も一生懸命描いたので読んで頂けたら嬉しいです。

おまけ

今回の謝罪と反省!!

とにかく前述した通りにイメージをそのまま漫画にしたら服装の不備がすごく沢山あって特に一番本編で酷かったのは本編2p目で腕を組んでる魔王の腕に輪っかがついていないのに気付いてるのに描けないからそこだけ外してるって所だと思います…。手が末端肥大的に大きく描くのはわざとなんですけど、それにあわせて腕の輪っかが浮いた状態で付いてるのもどうなんだろう…って思いながら描いてました…。

あと横向きの絵を全然考えてなかったからラフで描いてる段階で気にして無かったのが横を向いた時に首に付いてる犬がケガした時に着けるヤツみたいなのと肩パットみたいなヤツが横から見た時にどうなってるのか想像でうまく描けないっていうのがありました。

要するに全部ただ無計画で絵が下手だって事に起因するんですけど…。本当に色々すみませんでした…。反省してもっと頑張ろうと思います…。

